

体が違うから、役割分担があるのは自然

「過保護」で「壊れ物を触るような感じ」

息子たちには、自分と同じような思いをパートナーにさせないでほしい

「人として」意見を認めてほしい

「女性だから」頼りないって思われてる

「男」「女」って単純すぎ

程度ってあるよね・・・

誰かの役に立ちたい

女性が責任ある立場を求めている

父に「なぜ育休を取らなかったのか」と聞いてみた

自分らしさが、わからない

やりがいを感じてる？

管理職になることだけが活躍？

みんな活躍してる

「女性活躍」って言葉自体が性差

みんながそれぞれのやりがいを見つけたらいい

幸せですか？

今さら男女？

困っていても、「助けて」が言えない・・・

子どもを犠牲にしてまで働く意味ってある？

好きなようにさせて

男性の子育ては「お手伝い」じゃない

好きなことができてる？

男だからがんばれ、力持ち、って言われる



「令和7年度市民インタビュー」から作成

真庭市生活環境部共生社会推進課

〒719-3292 岡山県真庭市久世 2927-2
 TEL : 0867-42-1017 / FAX : 0867-42-7455
 E-mail : kyoseisyakaisuishin@city.maniwa.lg.jp
 真庭市公式ホームページ : <https://www.city.maniwa.lg.jp>



資料編



本編用語集



資料編用語集



みんなで

大きなかぶ

きぬこう



「わたしらしく、あなたらしく」を応援しあう「まち」

あいプラン まにわ
 第5次真庭市男女共同参画基本計画
 令和8年(2026年)4月真庭市

はじめに

『大きなかぶ』の物語から学ぶ【計画の趣旨】

畑に、大きなかぶが育ちました。
 まごが畑でかぶを抜こうとするけれど、抜けません。
 まごは、みんなに助けをよびかけます。
 おばあさん、おじいさん、いぬ、ねこ、ねずみが
 次々と力を合わせ、ようやくかぶが抜けました。
 みんなでかぶを食べました。
 そして、次にどんな「かぶ」を育てるか、話しました。



『あいプラン まにわ』とは・・・

「愛」	愛情・思いやり・包み込む心 家族や仲間を信じる温かさ
「I」	私自身・自分から始まる行動 「抜こう」とまず引っぱってみる
「eye」	目（視点・まなざし） みんな仲間。すべての存在を平等に見る
「合い」	ふれ合い・認め合い・支え合い・協力・調和 「うんとこしょ、どっこいしょ」の声
「相」	お互い・相手・相互の関係性 一人ではなく、仲間で抜こう
「会い」	出会い・めぐり会い・つながり 仲間を呼び集め、力を広げる

真庭市でも、

社会的な性差※1により、生きづらさを感じたり、潜在能力※2を十分に伸ばしにくかったりする状況があります。これは少子化や人口減少にもつながる、大きな課題です。
 本計画は、第4次計画までの男女共同参画の歩みを土台に、民話『大きなかぶ』の物語に重ねながら、これからの地域を描きます。みんなで考え、語り合い、性差にかかわらず、一人ひとりが尊重され、自分らしく生きられる地域の実現をめざして策定しました。



すでに真庭市にある「だれもが自分らしく生きられる地域」を象徴しています。固い土に埋もれて、今は少ししか見えませんが、土の中では、大きくおいしい「かぶ」が育っています。

偏見や慣習という「土」の固さ、制度や仕組みという「石」が、かぶを抜きにくくしています。しかし、これまで「大きなかぶ」を育ててきた栄養でもありますが、みんなで畑をたがやせば、また「大きなかぶ」が育ちます。

世代や立場をこえて協力する仲間。「大きなかぶ」を抜くには、いろいろな力が必要です。ねことねずみのように、仲が悪くても、声をかけて、「仲間」になります。そして、「次のかぶ」を考え、育みます。

※ロシア民話。日本でも絵本などで広く親しまれています。本計画では、主人公の設定を「おじいさん」から「まご」に変更しています。

※1「社会的性差」 生物学的な性別に対して、社会や家庭、地域の中にある作られた性別の差のこと。ジェンダーに含まれることもある。

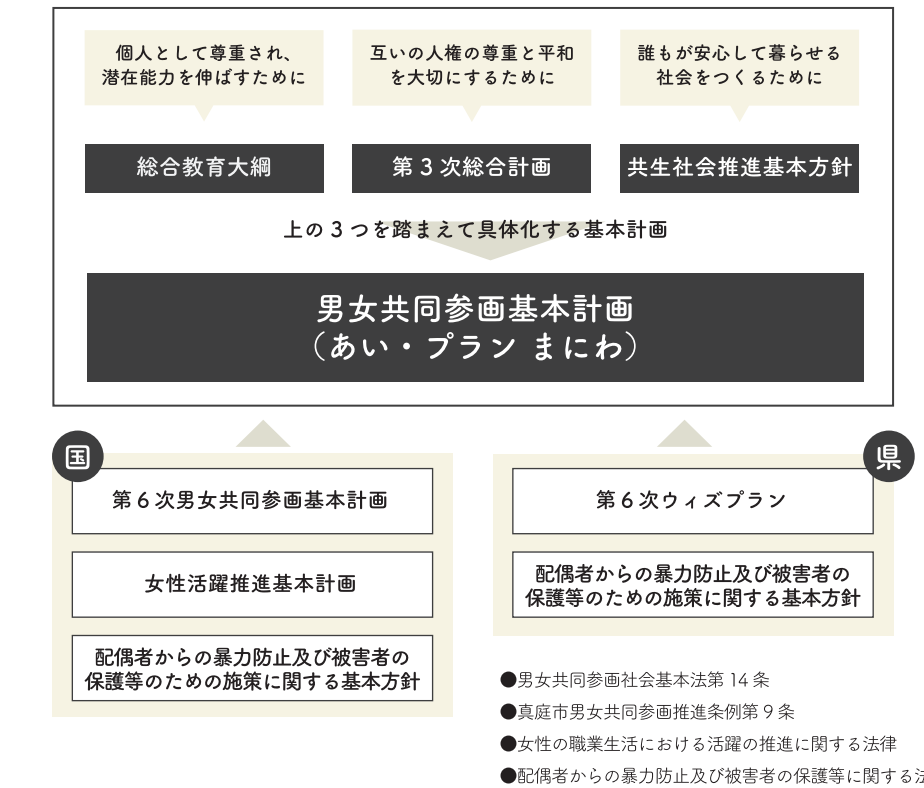
※2「潜在能力」 人生の価値を見出し、人生を選択し、自由に生きることができる機能の集合。アマルティア・センが提唱した。

第1章 計画について

1 基本理念

- 個人の尊重※3・・・一人ひとりの人権と尊厳を大切に
- 共生・・・互いに支え合い、安心して暮らす
- 自分らしく・・・性差にとらわれず、のびのびと生きる

2 計画の位置づけ



3 計画期間 令和 8(2026) 年度～令和 12(2030) 年度 5 年間

※3「個人の尊重」 日本国憲法第13条に掲げられた基本理念。

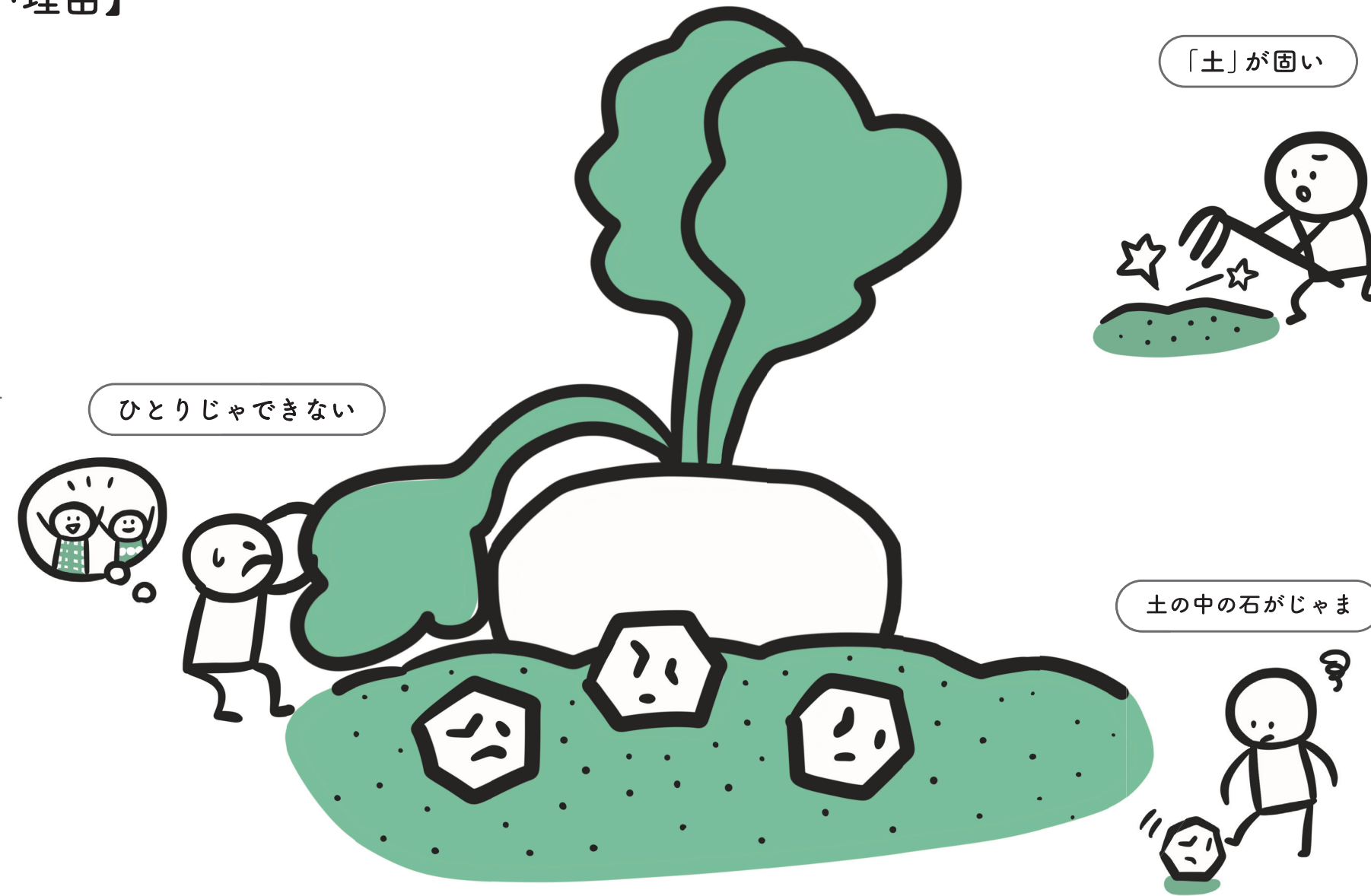
第2章

現状と課題【かぶが抜けない理由】

大きなかぶを見つけました。
でも、かぶは抜けません。
どうして抜けないのでしょうか？

【仲間】人・つながり・協働のしくみ

- 真庭市全体で推進する姿勢が弱い
- 行政、議会、教育、地域、経済等の各分野での連携した取組が少ない
- 企業や組織以外での女性の横のつながりが少ない
- 社会的性差に取り組む団体が少ない
- 組織や地域、学校などにお手本となる人（ロールモデル）を見つけづらい
- 社会的性差について考える機会が少ない



ひとりじゃできない

「土」が固い

土の中の石がじゃま

【土】文化・意識・考え・慣習

- 家庭・地域・職場などにある固定的役割分担意識^{※4}
- 固定的役割分担意識を起点とする無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）^{※5}がある
- 身体的性差の誤解による不必要な配慮がある
- 性差に基づく自己肯定感の低さ・自信の低さ
- 濃厚な人間関係からくる息苦しさ
- 男性にもある生きづらさ
- ジェンダー^{※6}について知る・学ぶ機会が少ない
- 社会的性差に対して、世代間の意識の違いがある

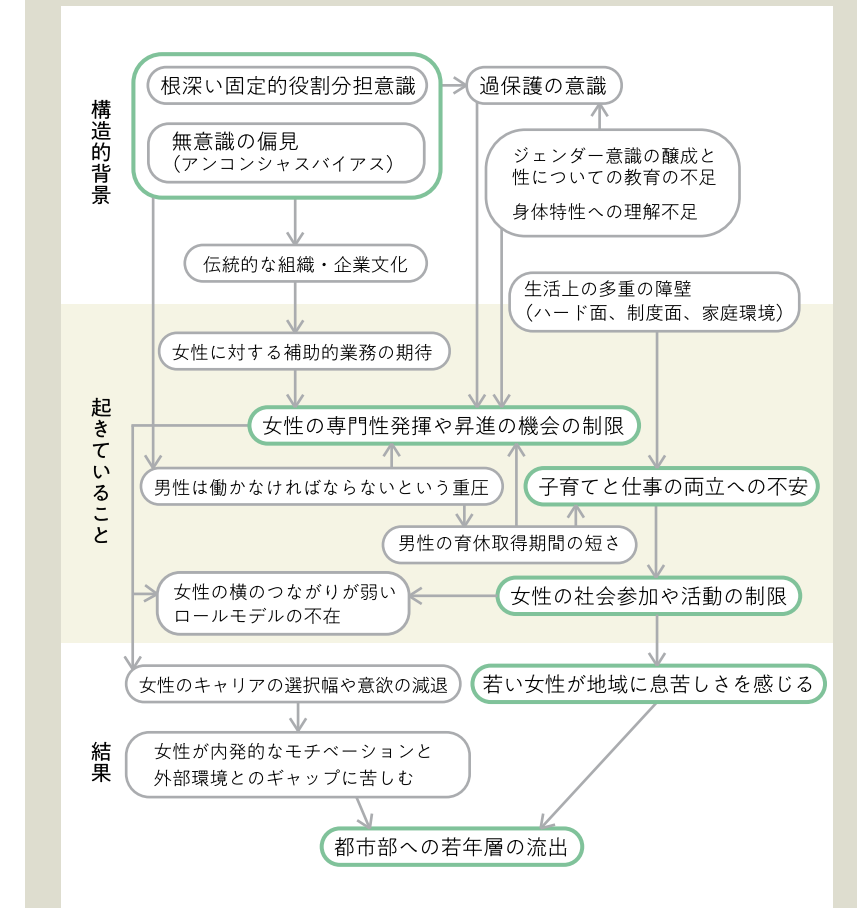
※4「固定的役割分担意識」性別によって、家庭や社会で役割分担する意識や考えのこと/※5「アンコンシャスバイアス」自分でも気づかない偏見や差別。/※6「ジェンダー」社会や文化が作ってきた「性別に関する役割・期待・規範」のこと。社会的性差の根源となっている。

【石】社会の制度・構造、環境

- 配偶者等の暴力^{※7}（DV）
- 意思決定の場での女性の少なさや、性別による偏り
- 女性のキャリア形成の不明確さ
- 子育て・介護、地域と家庭の両立の困難さ
- 職種や働き方の性差による偏り

※7「配偶者等の暴力」ドメスティック・バイオレンス 配偶者等による身体的・精神的・経済的暴力や無視のこと。

課題間のつながり（概要）



『令和6年度市民意識調査』、
『令和7年度市民インタビュー』から作成

第3章

基本目標と目指す姿【みんなで、かぶを分け合って食べる】

【基本目標】

「わたしらしく、あなたらしく」を応援しあう「まち」
～みんなで、大きなかぶを抜こう～

だれもが、自分らしく、幸せを感じる人生を歩く。
性差ではなく、互いの個性と能力を認め、応援しあう。
力を合わせ「かぶ」を抜き、分け合う。
だれにも居場所と役割がある。
「大きなかぶ」は、そんな地域です。
そして、次の「かぶ」を育てる新しい仲間も、
加わっていきます。



第4章

重点施策【かぶを抜く手立て】

どうやって抜こうかな



世代や立場を超えた仲間をつくる

一人では抜けない「かぶ」も、仲間となら「うんとこしょ」と声を合わせて抜くことができる。



- ・真庭市全体での推進体制の構築
- ・市民や団体のつながりをつくる
- ・団体の育成や支援を行う
- ・ロールモデルの育成と啓発

固い土をたがやす

土が固くて「かぶ」が抜けない。みんなで土をたがやそう。応援し合おう。



- ・男女共同参画施策の啓発
- ・固定的役割分担意識やアンコンシャスバイアスの解消
- ・顕在化している生きづらさの解消
- ・身体的性差・社会的性差を学ぶ機会づくり
- ・男性の生きづらさに対する支援



土の中の石をなくす

石がじゃまで、「かぶ」が抜けない。石を砕こう。



- ・配偶者等の暴力の根絶
- ・賃金格差や採用格差などの社会構造化※8している社会的性差の解消
- ・社会構造の見える化

※8「社会構造化」 固定的役割分担意識などにより、制度や慣習、仕組みなどになっている社会的性差。

次のかぶを育てる

次は、どんな「かぶ」を植えようか。もっとおいしい「かぶ」が育つように、みんなで話そう。



- ・社会的性差が解消された社会を考える機会づくり
- ・次世代につながる核となるリーダー層の育成



大きなかぶを育てる栄養

かぶが抜けた土に、栄養を入れて、次のかぶを育てる準備をしよう。



- ・多様なライフスタイルや価値感への理解の醸成
- ・時代の進展に合わせた共生社会の実現のための意識醸成

第5章

推進体制

【かぶ畑での役割分担】

(真庭市男女共同参画推進条例第6条、第7条、第8条)

多様な立場の協力体制

畑全体の土をたがやすことで、「大きなかぶ」が抜け、次の「かぶ」が育ちます。いろんな場所で、声をかけ合い、相談し、応援し合うことが、「大きなかぶ」の物語を紡いでいきます。

1 市民の役割（実行・改善）

声をかけ合い、仲間と土をたがやし、かぶを抜く物語の主人公です。いろんな場面で、「性別で決めていないか」と土の固さを確かめながら、仲間との対話や学びから、物語を前に進めます。

2 団体・事業所の役割（実行・改善）

だれもが、自分らしく能力を生かせる環境をつくれます。意思決定や参画の仕組みを見直し、石を取りのぞき、豊かにする大切な担い手です。

3 市の役割（評価・計画・実行）

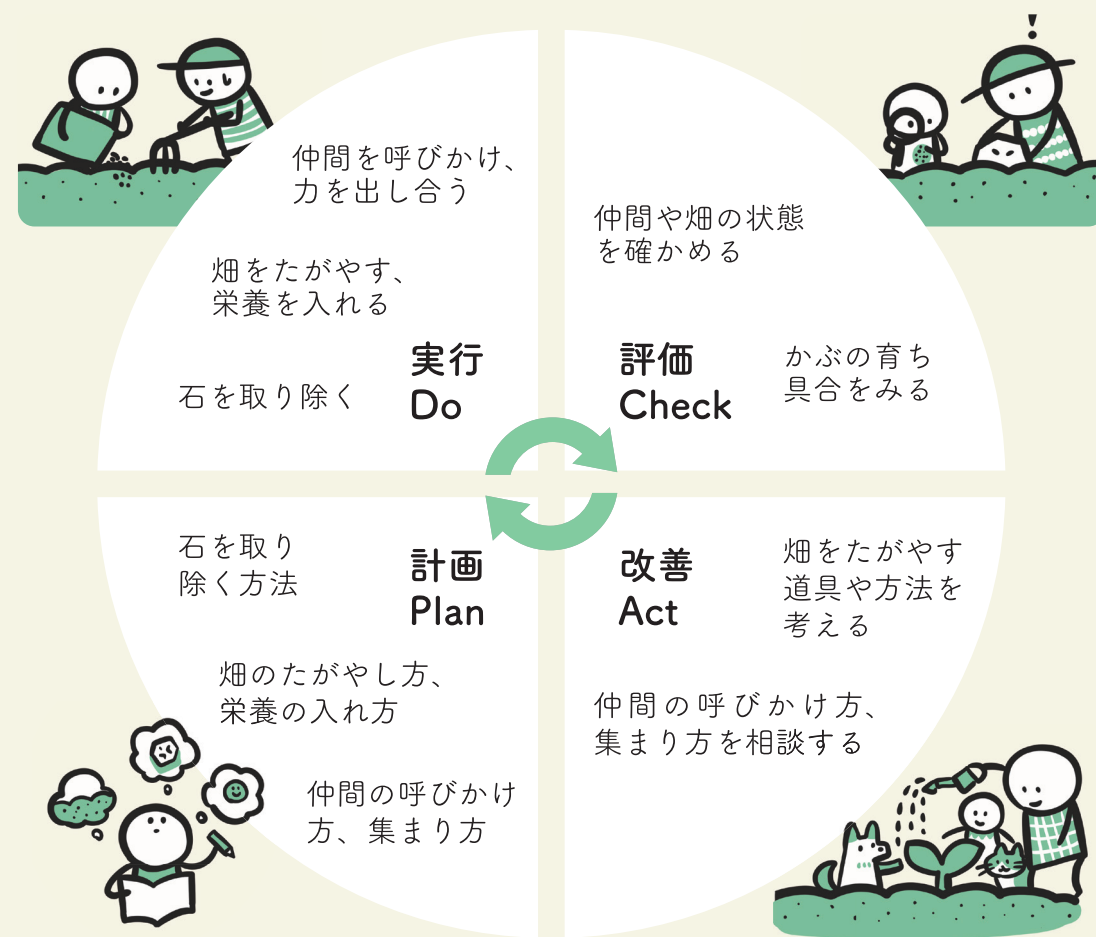
土と石を見わたし、かぶを育て抜くまでの手立てを整えます。市民や団体、事業者と手を取り合い、仲間づくりから土壌づくりまで、計画的に物語の道筋を整えていきます。

第6章

評価と見直し

【つぎの「かぶ」を考え、話し合う】

1. 進捗管理と点検 (CAPD)^{※9}



※9 「CAPD」 真庭市では現状を確認することから始める趣旨で、Check から始めています。

2. 成果指標

【仲間】

交流やコミュニティの場での提案事業の実施数：年2件以上

現状：実施実績なし

交流やコミュニティの場の参加者数：のべ年100人以上

現状：実施実績なし

【土】

※10 地域幸福度 (Well-Being) 指標に「女性が活躍しやすい地域」：50.0以上

現状：令和5年度41.1

意識調査(30・40代)男性の家事時間数における男女の認識の差：男女比1.5:1

現状：令和6年度調査結果
男2(96.5分)：女1(50.6分)

【石】

審議会委員女性登用率：45%以上

現状：令和6年度 35.8%

※10 地域幸福度 (Well-Being) 指標：客観指標と主観指標のデータを活用し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感 (Well-being)」を指標で数値化・可視化したもの。

「大きなかぶ」が抜けたあと、みんなで「かぶ」を食べました。

まごは畑を見渡し、みんなに声をかけました。

「どれくらい育っていたかな。どこがやりやすかったかな。」

いぬやねこ、ねずみは仲間や畑の様子を振り返りました。

おばあさんとおじいさんは、今までの経験や知恵を話しました。

うまくいったことは大切にし、まだ固いところは手入れを続ける。

分かち合った「大きなかぶ」は、次の種にもなります。

未来のかぶをみんなで育て続けるための、

物語のつづきです。

